

# とりまとめに向けた検討資料

---

令和4年1月24日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



## 「戦略目標.0」の具体化

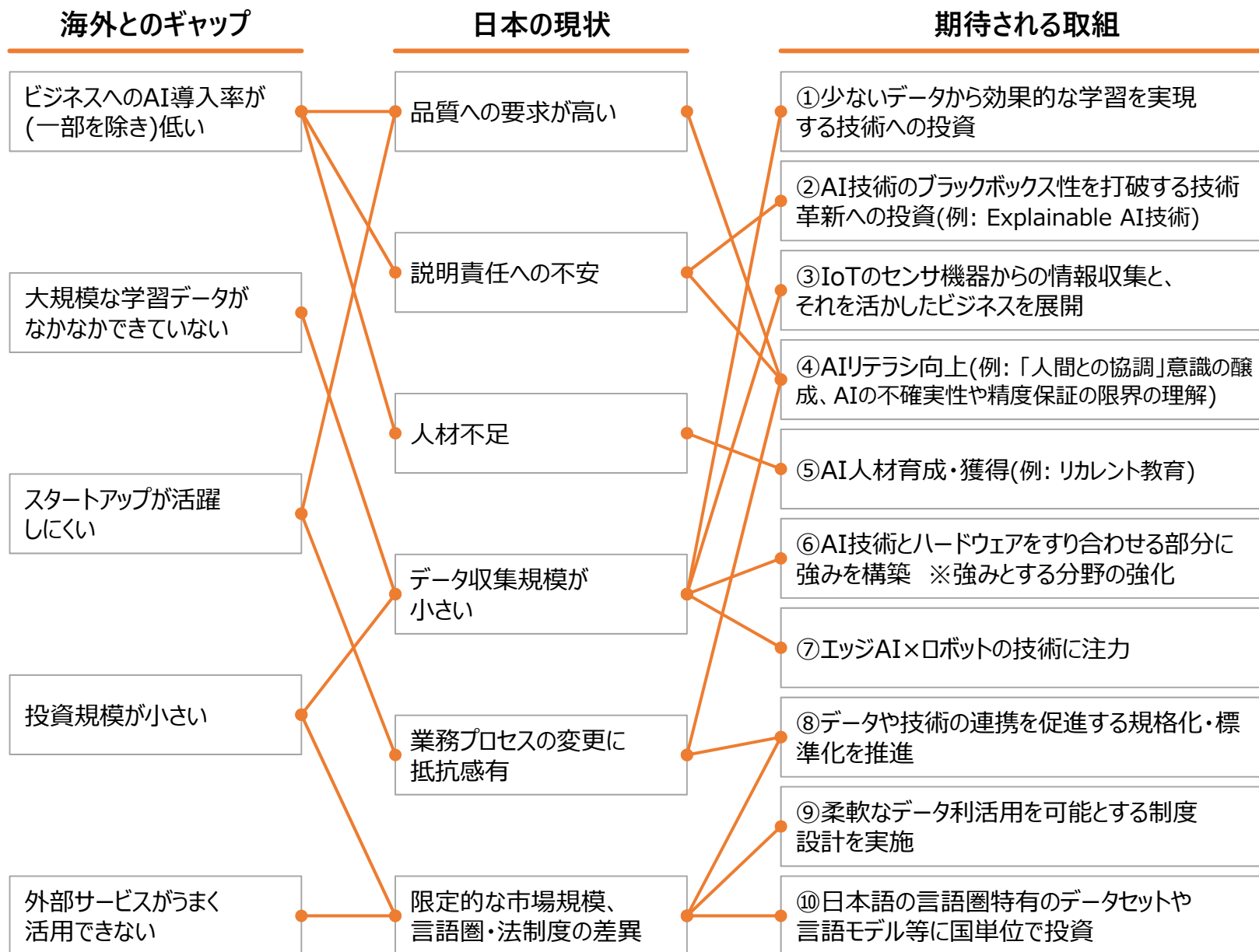
将来的な危機を見越して、対応すべき事項

	論点の細目 (例)	対応 (例)
(1) 自然災害等	<ul style="list-style-type: none"><li>大規模災害（特に被災後の復興）を念頭に、中長期的に取り組むべきことは何か？</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>海外展開推進は産業面だけでなく復興やBCP面で有効ではないか？（ノウハウ貯蓄の冗長化）</li><li>サプライチェーン機能（食料分野等）のレジリエント性やロバスト性の担保に向けた課題はあるか？</li><li>組織の壁を越えて時限的に英知/情報/資産等をうまく利用できる仕組みは備わっているか？</li></ul>
(2) パンデミック	<ul style="list-style-type: none"><li>現下の対応（デジタル庁等）のほか、将来に備えるべきことは何か？</li></ul>	

## AIの社会実装の促進

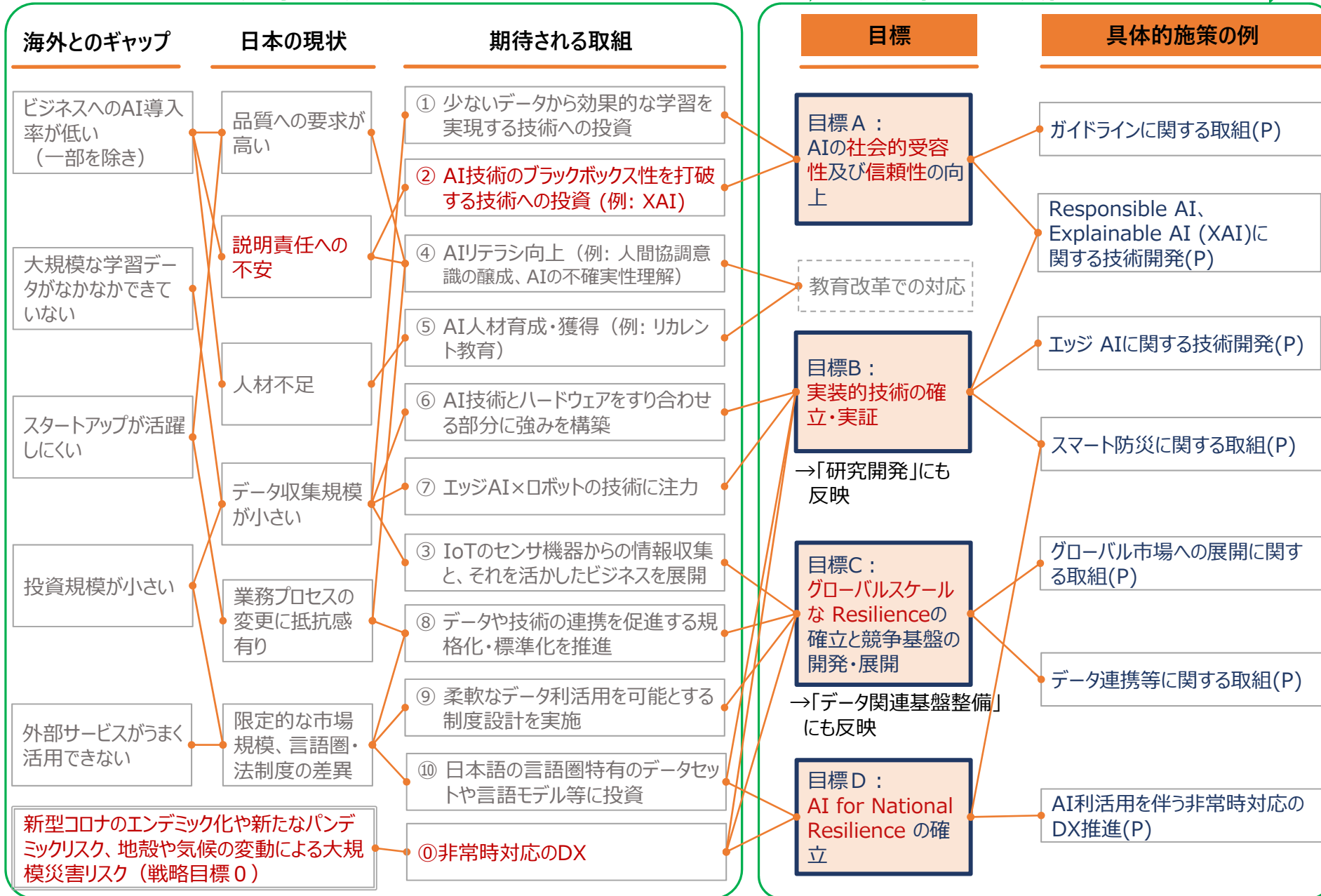
国際動向等を踏まえ、AIにより価値を創出するため取り組むべき事項

	論点の細目 (例)	対応 (例)
(1) 分野重点化	<ul style="list-style-type: none"><li>現在の重点6分野についてどのように見直すべきか？（分野という切り口を維持するか？）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>分野毎の大きな差違を見極めながら検討（実際にはあまり見受けられないのではないか？）</li></ul>
(2) 取組手法	<ul style="list-style-type: none"><li>ハーベスト・ループの形成を、国はどのようにうながすべきか？</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>「（準公共分野（医療、防災、教育等））×（Human In The Loop）」への着眼等により、国の関わり方が見えないだろうか？</li></ul>



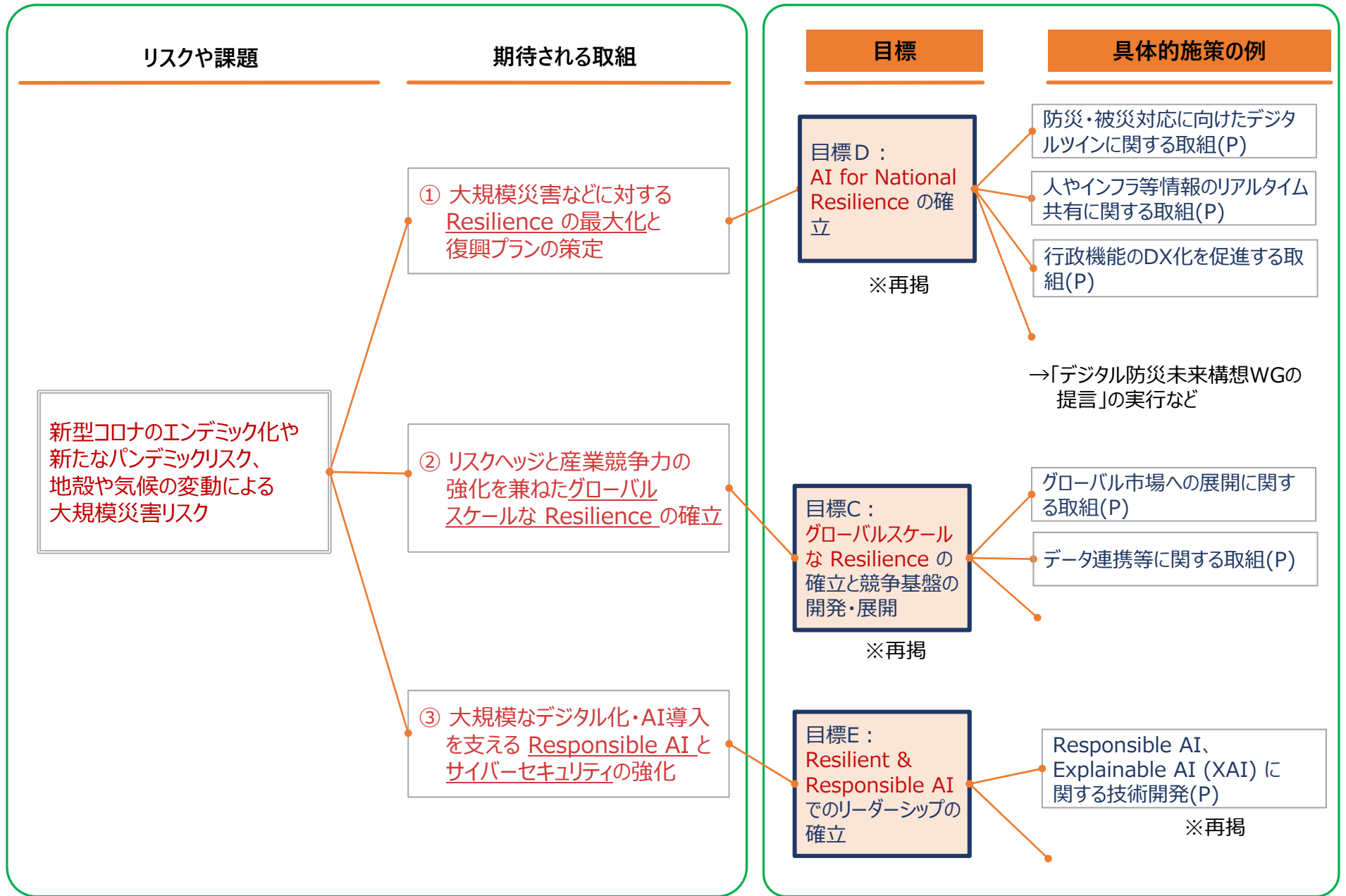
個別の取組(目標設定)

各分野における現況等の把握 → 政府施策としての具体化



現状認識

政府施策としての具体化



# 構成員によるご意見

分類	発言要旨
あるべき姿・目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・我が国がどのような状況にあり今後どうあるべきかの議論が必要</li><li>・3年で追いつき、5年で追いぬく目標設定は非現実的。拙速に考えず、根底から見直すべき</li><li>・ビジョンを変革し、新しい軸に行かないと生き残れない</li></ul>
方向性・シナリオ	<ul style="list-style-type: none"><li>・どの分野なら勝てそうか、どこで頑張るべきか見定めてリソースを集中すべき</li><li>・パンデミックや災害などへの対処等今までの産業視点ではない所が勝負どころ 特に日本復興という視点が重要</li><li>・ゲームチェンジのタイミング、不連続な変化をつかむ発想が必要</li><li>・ボトムアップ的施策だけでは不足。国家戦略的でトップダウン的な計画が必要</li><li>・世界市場との接続性を重視した政策の展開が重要</li><li>・環境負荷を下げる取組が課題</li><li>・各省庁の取組はマストなので実施するが、もっと戦略的なもの、その向こうにあるものがあるはず</li></ul> <p>AI for National Resilience</p> <p>グローバルスケールなレジリエンスの確立と競争基盤</p>
戦略運用時の手段	<ul style="list-style-type: none"><li>・他国の取組等をコピーして、その後独自の拡張をしていくという成功事例もある</li><li>・民間企業との協力がポイント。農業では多くの商社に取り組みありグローバル展開も考えられる</li><li>・WAGRIでは多くのデータが蓄積されており、ここからハーベストループをどう作っていくかが重要</li><li>・AI等の技術でデータを活用していくためには、規格化や標準化はとても重要</li><li>・多層化された社会機能が連動した形のシミュレーションが実現できると良い</li></ul> <p>グローバルスケールなレジリエンスの確立と競争基盤</p> <p>AI for National Resilience</p>
社会実装の阻害要因	<ul style="list-style-type: none"><li>・研究データを各研究機関に預けたままで利活用されていない点は問題</li><li>・NICTの研究開発は、利活用のために現場に落とし込む段階で法的な制約に関わってくるように感じる</li><li>・AIと人間の協調、Human-in-the-LoopもしくはExpert-in-the-Loopに資する技術の開発が重要。この要素技術のひとつとしてXAIも含まれる</li></ul> <p>グローバルスケールなレジリエンスの確立と競争基盤</p> <p>社会的受容性及び信頼性の向上</p> <p>Resilient &amp; Responsible AIでのリーダーシップ</p>